

生徒指導通信

令和8年10月2日
熊野町立熊野東中学校
生徒指導部

～自分の命、仲間の命を守り切る「正しい判断と行動」～

本日の帰りHRで実施した「不審者対応訓練」お疲れ様でした。全員が緊張感を持って真剣に臨むことができたでしょうか。学校は、皆さんが安心して学び、仲間と笑い合い、伸び伸びと成長するための場所です。しかし万が一、校内に危険な不審者が侵入するような想定外の緊急事態が発生した時、あなたや大切な仲間の命を守る最大の盾となるのは、一人ひとりが持つ「正しい知識」と「自律した行動力」です。

1. 命を守る極秘の暗号

校内には、不審者をいたずらに刺激・興奮させず、全校生徒と教職員にだけ迅速に危険を知らせるための「校内暗号」が存在します。

○不審者侵入、不審者がいる場所の緊急サイン

パニックを起こさず、一瞬で危機管理モードに切り替えましょう。不審者が位置している危険エリアが、自分のいる教室からその場所までどれくらいの距離があるかを頭の中で素早く計算し、危険がどれほど迫っているかを正しく把握してください。

2. 教室内での「立てこもり」3ステップと「静寂」の理由

不審者侵入の放送を聞いたら、または先生からの指示があったら、迷わず次の3ステップを迅速に実行します。

【施錠】扉と廊下側の窓のカギをすぐに閉める

侵入を未然に防ぎ、警察到着までの時間を稼ぐため、速やかにカギを施錠します。

【バリケード】机やイスを入口付近に集めて壁を作る

外から簡単にドアを開けられないよう、がっちりとしたバリケードを構築します。

【ベランダ寄置と静粛】入口から最も遠いベランダ側へ移動し、完全無言で息を潜める

全員で身を寄せ合い、存在を消すように静かに待機します。

○なぜ「完全無言」でなければならないのか？

①生徒の存在（居場所）を不審者に悟らせないため

音や声は、不審者に「ここに人がいる」と教える情報になってしまいます。

②室内での集団パニックを防ぐため

恐怖の中で誰かが声を出すと、不安が全周囲に伝染してパニックを引き起こします。

③不審者を無駄に刺激・興奮させないため

人の声や騒音は、不審者の攻撃性を高める危険があります。



3. 命を脅かす「絶対にやってはいけない3つのNG行動」

✕ 窓の外や廊下を「覗き込む」行為

外の様子が気になっても、窓から覗き見ることは自ら不審者のターゲットになりに行くようなものです。徹底して隠れ続けましょう。

✕ 指示のない勝手な単独行動

パニックになって一人で教室を飛び出したり、勝手な判断で移動したりしてはいけません。

✕ 先生と不審者の間に割って入る行為

不審者に対峙し、身を挺して皆さんを守るのは先生たちの役割です。生徒の皆さんは絶対に間に入らず、先生の指示に従って退避してください。

※万が一、不審者が教室内に直接侵入してきた非常事態の時のみ、身近にある机・イス・ほうきなどを盾や防御として活用し、身を守ります。

4. 日常の防犯：東中三訓「礼（挨拶）」が最高のバリアになる

不審者対策は、事件が起きてからの対応だけではありません。実は、普段の学校生活の中にこそ、最も強力な防犯対策が隠されています。

不審な行動をとる人物が最も嫌がるのは、「自分の存在に気づかれること」「顔を見られること」「声をかけられること（見守りの目が厳しい学校であること）」です。校内ですれ違う来客の方や地域の方に対し、自分から「こんにちは！」「どちらへご用ですか？」と気持ちの良い「挨拶」を交わすこと。この当たり前の行動習慣が、不審者に対して「この学校は隙がない」と感じさせ、侵入を未然に防ぐ最強のバリアになります。



5. 事態収束と「心のケア」：不安や恐怖を感じた人へ

校内放送で「不審者が警察に確保された」というオールクリアの連絡が入るまでは、勝手に警戒を緩めてはいけません。放送を聞いて初めて、緊張を解き、担任の先生の誘導に従って行動します。

6. 不審者対応「自分チェックリスト」

- ☐ 校内暗号の意味を正しく理解している
- ☐ 教室内での立てこもり3ステップ（施錠・バリケード・ベランダ側で無言）を覚えた
- ☐ なぜ「完全無言」を守らなければならないのか、その理由（3つ）を説明できる
- ☐ 覗き込みや勝手な単独行動などの「NG行動」を絶対にしないと誓える
- ☐ 日頃の「挨拶（礼）」が不審者の侵入を防ぐバリアになると理解した

「当たり前」のその先へ！

かけがえのない自分の命、そして仲間の命を守り切る

「やり切る力」を身につけよう！

